

※本リリースは、文部科学記者会、科学記者会、重工記者会、化学記者会、山形県政記者クラブ、青森県政記者クラブ、岩手県政記者クラブ、宮城県政記者クラブに配布しております。

プレス発表資料

平成23年10月1日

山形大学・日本化学会東北支部

国際化学オリンピック「がんばろう、東北」枠 代表候補生徒5名を選出

青森県、岩手県、宮城県の代表候補生徒5名が
日本代表をめざして来年1月の代表選考1次試験に臨む

山形大学（学長：結城 章夫）と日本化学会（会長：岩澤康裕 電気通信大学特任教授）東北支部（支部長：河野裕彦 東北大学教授）は、8月21日に共同で実施した「がんばろう、東北」第44回国際化学オリンピックアメリカ大会代表候補生徒東北枠選考試験（以下、東北枠）において選出した東北支部推薦代表候補生徒5名を発表しました。

今回の「東北枠」は東北6県（青森県、秋田県、岩手県、福島県、宮城県、山形県）の高校生に対する支援策として山形大学と日本化学会 東北支部が実施しました。選考試験は、東北6県それぞれで推薦を受けた高等学校および工業高等専門学校 の1・2年生27名が参加して行われ、試験の成績順に5名が選ばれました。

第44回国際化学オリンピックアメリカ大会の代表生徒の選考は、日本化学会と「夢・化学-21」委員会が実施した「全国高校化学グランプリ2011」の高校2年生以下の成績優秀者21名と「東北枠」の5名、日本化学会支部から推薦を受けた生徒1名、合計27名の代表候補に認定された生徒を対象に行われ、来年1月の代表選考1次試験、3月の2次試験を経て、最終的に4名の日本代表生徒が決定されます。

山形大学の結城学長（「東北枠」実行委員長）は、「今回の東北枠は、東日本大震災の被災地域の生徒への支援策として設けたものです。選ばれた5名の代表候補には、“がんばろう、東北”の気持ちを込め心からエールを送るとともに、日本代表までの厳しい選考試験を好きな化学をより深く広く学ぶ機会と捉え、世界中の仲間と出会えるよう頑張ってもらいたい」と生徒たちを励ましました。

また、今回の「東北枠」実行副委員長である東北支部長の河野教授は、「今回の東北枠選考試験は、化学を通して被災地域の生徒たちを少しでも元気づけられれば、と実施しました。代表選考に向けて知識や思考力を鍛え、化学者としての感性や、自然を理解する大切さを体得し、アメリカ大会で世界レベルの化学に挑戦して頂きたい」と述べました。

国際化学オリンピックについて

毎年7月に10日間開かれる、高校生の「化学」の国際コンテストで、1968年に東欧3カ国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）が始めた高校生の化学の学力試験から発展したものです。近年では約70の国と地域が参加する一大国際大会となっています。1カ国(地域)から最大4名まで代表が出場できます。コンテストは、個人単位で行われ、それぞれ5時間に及ぶ実験問題（**Practical Examination**）と筆記問題（**Theoretical Examination**）に挑戦します。成績優秀者には金メダル（参加者の1割）、銀メダル（同2割）、銅メダル（同3割）がそれぞれ贈られます。日本は2003年のアテネ大会より参加しています。

- ・代表選考に臨む東北枠選出の5名

第44回国際化学オリンピック代表候補生徒東北枠選考試験により選出されたのは以下の5名です。

県名	氏名	ふりがな	学校名	学年
宮城県	大村 啓貴	おおむら ひろたか	宮城県仙台第二高等学校	2年
宮城県	金子 博人	かねこ ひろと	宮城県宮城第一高等学校	2年
岩手県	島岡 佑典	しまおか ゆうすけ	岩手県立盛岡第一高等学校	2年
青森県	中村 悠治	なかむら ゆうじ	国立八戸工業高等専門学校	2年
宮城県	桃野 幸文	ももの ゆきふみ	宮城県仙台第二高等学校	2年

※50音順 学年は10月1日時点

- ・代表候補生徒のコメント

大村啓貴さん（宮城県仙台第二高等学校 2年）

「全国屈指の優秀な学生が集う国際化学オリンピックの選考会に出場でき、とても嬉しいです。それと同時にとても身が引き締まる思いです。この大会は私にとってもハイレベルなもので緊張もしていますが、それ以上にライバルと良い戦いを演じていきたいと思っています」

金子博人さん（宮城県宮城第一高等学校 2年）

「今回東北枠という機会を与えていただき、化学オリンピック代表候補になることができました。これから、化学をより一層深く本格的に勉強していきたいと思いません。日本代表という目標へ向けて精一杯頑張ります」

島岡佑典さん（岩手県立盛岡第一高等学校 2年）

「日本代表候補に選ばれたことをとても光栄に思います。これから自分が大好きな化学を深く学んでいけることを考えると、とても楽しみです。東北人の粘り強さを活かしながら、日本代表に選ばれるよう全力で頑張ります」

中村悠治さん（国立八戸工業高等専門学校 2年）

「『かがく』を広辞苑で引いてみました。一番最初に出て来たのは科学でも化学でもありません。【下学】手近な所から学ぶことです。私が学ぶ化学も下学でありた

いです。身近な物質に興味を持ち、そこから深く進んでいきたいと思っています」

桃野幸文さん（宮城県仙台第二高等学校 2年）

「化学オリンピック代表候補になることができ、非常に嬉しく思います。しかし、僕がなりたかったのは代表候補ではなく、金メダリストです。ここからの選考は非常に厳しく、他の候補の方々も優秀ですが、代表の座を勝ち取りたいと思います」

（お問い合わせ）

山形大学 S C I T A センター

TEL : 023-628-4517

日本化学会東北支部

TEL/FAX : 022-224-3883

E-mail:nikka.tohoku★chemistry.or.jp

（★を@に変更）